

令和2年生駒市教育委員会第6回定例会会議録

1 日 時 令和2年6月23日(火) 午後1時30分～午後2時51分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- 報告第15号 臨時代理につき承認を求めることについて
(令和2年生駒市議会第5回(6月)定例会提出議案の意見について)
- 報告第16号 令和2年生駒市議会第5回(6月)定例会提出議案の結果について
- 報告第17号 令和2年度園児・児童・生徒数について
- 議案第25号 令和2年度生駒市教育委員会の活動の点検及び
評価について
- 議案第26号 学校運営協議会を設置する学校について
- 議案第27号 生駒市社会教育委員の委嘱について
- 議案第28号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
- 議案第29号 生駒市学校医の委嘱について

4 教育委員会出席者

教育長	中 田 好 昭		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委 員	坪 井 美 佐
委員	レイノルズあい	委 員	西 井 久 之
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 信 行	学校給食センター所長	財 満 直 也
こども課長	松 田 悟	こども課指導主事	川 田 奈 津 子
こども課指導主事	松 本 裕 美	子育て総合支援センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	小 北 敦 志
教育指導課課長補佐	日 高 興 人	教育指導課課長補佐	八 代 大 輔
こども課課長補佐	大 窪 奈 都 子	教育指導課キャリア教育プランナー	尾 崎 え り 子
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実

6 傍聴者 12名

午後1時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和2年4月1日採用会計年度任用職員（キャリア教育プランナー）の挨拶について、奥田教育こども部長から説明

・新型コロナウイルス感染拡大防止に対する生涯学習施設及びスポーツ施設の対応について、八重生涯学習部長から説明

<参照：資料1>

（質疑）

飯島委員：自粛の緩和に当たっては、3週間ごとに方針を変更していくとのことであったが、今後、感染の第二波があった場合、対応方針はより細かく見直していくのか。

八重部長：そのとおりである。都度、方針を見直し、対応していく。

坪井委員：生涯学習施設は市民の生涯学習活動の中心となる場である。コロナ禍によって、生涯学習施設の利用が減り、今後も回復が難しい部分があると思う。今後の施設運営に当たって、利用促進のための新たな施策を検討するべきではないか。市民の生涯学習活動のきっかけづくりについて、直ちには難しいと思うが、今後考えていきたい。

・教職員の夏期研修について、前田教育指導課長から説明

（質疑）

飯島委員：研修については、規模縮小若しくは延期の対応をとるとのことであった。しかし、熱中症予防対策研修会等、より多くの方に受けていただきたいので、単に縮小のみではなく、オンラインで参加できるようにしたり、後日動画配信をするなど、本来受講すべきだが出席を控える方でも受講できるように、開催方法を検討していただきたい。

前田課長：検討させていただく。

イリス委員：感染対策のため、例年より回数が少なく、受講できる人数も限られてしまうのは仕方ない部分だと思う。例年、先生方にとって学期内よりは時間的余裕がある夏期休業期間中に、全体での研修を実施していた。しかし、今般児童生徒向けに使用しているeライブラリは、教職員向けメニューもあるので、先生方の研修の機会を保障する観点からも、eライブラリで代用できる部分は、活用しても良いのではないかと。

前田課長：その点についても、検討させていただく。

- ・生駒市英語教育カリキュラムの改訂について、前田教育指導課長から説明
＜参照：資料２＞

(質疑)

古島委員：資料２、１８ページにおいて、今後は学級担任の先生方も英語の授業をするということだが、研修を含め、準備状況について伺いたい。

前田課長：英語の授業については、当市では、５～６年ほど前から夏期研修において、小学校教諭向けの英語研修を続けてきた。昨年度までは、ALTコーディネーターも設置し、各校を回り、授業に入り、ALTや担任の指導に当たっていた。今年度はコーディネーターの配置はないものの、英語担当の指導主事が各校を回り、指導をしている。今年度は夏期研修での英語研修はなくなっているが、その分指導主事が巡回し、各校の職員研修においても講師として指導させていただく。

古島委員：夏期研修にも関連するが、夏はオンラインで実施されている教員向けの英語教育研修やセミナーも多い。事務局で情報収集し、先生方が参加できるものを、学校にお伝えいただきたい。

イリス委員：小学５・６年生においてALTに入ってください時間数が、２３時間から１６時間に減ってしまったが、その理由を伺いたい。また、中学校にはALTによる授業時数を伺いたい。

前田課長：当初は２３時間で予定していたが、予算の関係もあり、１６時間に変更となった。今年度は、わくわくイングリッシュサポーターの時間数を増やし、地域人材の活用を図っている。また、小学校でも英語が授業化されたことから、学級担任がホームルーム・ティーチャーとして、授業をしていただきたいと考えている。また、中学校では、年間１４０時間ある英語の授業において、ALTによる授業も実施するが、授業時数は、現在手元に資料が無いため、直ちに回答できない。

イリス委員：先生方が主体的に英語の授業をされることは非常に良いことだが、子どもたちにとっては、外国人の方の生の英語に触れる機会が減るのは残念だと思う。今後予算等に都合が付けば、時間数についても再検討していただきたい。

飯島委員：先ほど、５・６年生の年間指導計画にも触れていたが、英語は、話を聞くこと、表現することなど、コミュニケーションの要素が非常に大きな割合を占める。しかし、現状ではマスクを着用して授業をしなくてはならないので、先生にとっては、子どもの表情が見えず、また発音指導がしにくいといった支障があると思う。事務局において、そのような先生方の意見を集約しているのか。

前田課長：６月に入ってから授業についての意見集約はできていない。ただ、今後は熱中症のおそれもあるので、常時マスクを付けるのではなく、必要

に応じて着用し、基本的には外すよう指導していく予定である。マスクの取扱いを変えてからの学校の様子については、調査する予定である。

レィルズ委員：本カリキュラムでは、令和3年度までの計画を記載している。令和3年度以降か、できれば来年度から、今年度購入予定の1人1台のタブレットを、英語の授業にも積極的に活用していただきたい。例えば、ビデオ通話を使って海外の方とコミュニケーションを取ったり、アプリを活用した学習をするなど、様々な活用ができると思う。タブレットを活用した英語教育の推進も、今後の指導計画に追加していただきたい。

伊藤委員：現在、ALTの先生方には、フェイスシールドを用意しているのか。

前田課長：事務局からALTに対して着用を指示してはいないが、各校の判断で購入している。事務局からは、先生方にはマスクを着用して授業をするよう指示している。

伊藤委員：フェイスシールド自体の効果の検証も必要ではあるが、英語の発音や口の動きを見るために、フェイスシールドを着用して指導するのが良いのではないか。特に小学校の英語の授業は、発音が中心になると思うので、口の動きやクリアな音という視聴覚的な部分も重視していただきたい。また、実際に子どもから授業の様子を聞いていると、小学校の英語指導では、全般的に適切な英語の表現用いて指導されていないこともあるのではないかと不安に感じている。もちろん、小学校の先生方は、免許を取った時期によっては、英語が必修ではなかったことで、免許取得時のカリキュラムが不十分であったことは仕方ないことだと思うが、いきなりホームルーム・ティーチャーだけの英語の授業時数を39時間まで増やすことに対して、かなり心配に感じている。このことは、先生方の力量の問題ではなく、免許取得時は小学校で教える必要のなかった英語を、ここ数年で教科化することになった制度上の矛盾によって起きてしまっている問題である。今後も研修を続けていくことはもちろんであるが、ALTやわくわくイングリッシュサポーターを活用した授業時間の編成についても、是非再検討していただきたい。

前田課長：今年度は全校にデジタル教科書を導入し、発音についてはデジタル教科書を活用するよう指示している。従来から、先生方に対する研修も積み重ねており、発音等に対する苦手意識を持たず、思い切って授業をするように指導している。学級担任のみで39時間の授業をしていただくためにも、デジタル教科書等の補助教材を充実させている。

○日程第3 報告第15号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和2年生駒市議会第5回（6月）定例会提出議案の意見について）

・令和2年生駒市議会第5回（6月）定例会提出議案の意見について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 1、資料 3 >
(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第16号 令和2年生駒市議会第5回(6月)定例会提出議案の結果
について

・令和2年生駒市議会第5回(6月)定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長、奥田教育こども部長から説明。

<参照：議案書 p 3 >
(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第17号 令和2年度園児・児童・生徒数について

・令和2年度園児・児童・生徒数について、松田こども課長、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 4 >
(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 議案第25号 令和2年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

・令和2年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、奥田教育こども部長から説明

<参照：議案書 p 8、別冊 1 >
(質疑)

飯島委員：今までお願いしていた評価基準や記述方法等、反映していただき、次の取組の参考となる報告書となっている。その上で、例えば35ページの「生駒歴史文化友の会会員の増加」はB評価で、前年度より会員数が5人減ったことを理由に挙げている。このような項目について、あまり主観的な評価はできないが、文化的な興味関心が薄れつつある社会的背景を考慮すると5人減に留まったという評価や、内容の充実度を評価することもできる。今後は、事務的な手間のかかりすぎない範囲で良いので、他の項目に馴染むような記述で、数字的な部分以外も評価できるよう検討していただきたい。

奥田部長：記述方法については、教育こども部と生涯学習部の間で調整しながら、進めさせていただく。

寺田委員：私も常に意識している項目だが、11ページの「幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業」がA評価となっている。昨年度の点検評価報告書にあった、平成30年度の壱分小学校区での保幼小接続の取組を、令和元年度には市内全域に広げることが目標にしていた。令和元年度の取組の中で、非常に良い取組をした地域や、今までになかったアイデア等があれば伺いたい。このまま新しい取組やアイデアが出なければ、再びマンネリ化してしまうのではないかと危惧している。また、今回は報告書全体を通してS評価がなかったが、良い取組ができていても、目標を忠実に実現したという点でA評価にしているのか、それともS評価に値する良い取組が無かったのか。教育委員会として、現場や事務局で頑張ったことはつなげていきたいので、S評価が増えていけばと思うが、S評価となる基準を確認したい。

川田指導主事：保幼小接続事業について、昨年度先進会議を設けたことにより、教員同士の対話が増えた。このことによって、互いに親しみを持ち、理解も深まった。内容としては、DVDを鑑賞する研修も実施した。また、会議には、公私立の教員が共に参加しており、私立保育園同士の交流も深まった。また、校區別に話し合う機会も持ち、平成30年度にモデル地域として作成した壱分小学校区のカリキュラムを参考にし、他の地域でもカリキュラムの作成を行った。

寺田委員：接続カリキュラムを活用して、各地域版が作られているのは良いことだと思う。具体的に交流したことで良かった点も伺いたい。例えば、今年度は新型コロナウイルス対策のための休校により、1年生はいきなり給食が始まって、1年生だけで給食配膳をしなくてはならない状況となった。しかし、新1年生になった孫に話を聞くと、1年生だけでも準備ができているようだ。このことは、今まで幼小接続事業として6年生と給食の交流をしていたので、配膳の仕方がすでに身につけているからだと思う。小学校の先生方にも、子どもたちの出来る部分を確認し、保幼小接続事業の意義を見出していただき、引き続き取組をお願いしたい。

奥田部長：報告書全体を通して、S評価が無いというご指摘について、回答させていただく。S評価については、以前飯島委員から頂いたご意見を基に、新たに設けた基準である。昨年度作成分では、市立幼稚園及び小中学校のエアコンの設置がS評価となっている。本報告書に記載する項目は、基本的にアクションプランの項目のまま、教育委員会の主要な施策について掲載しており、自己評価としては厳しいものになった。評価については、先ほど飯島委員からご意見を頂いたように、書きぶりによっても印象が変わってくると思うので、今後は事務局の各担当のみでなく、教

育こども部と生涯学習部の間で書きぶりを照合しながら、各事業を評価していきたい。

中田教育長：部長からあったように、自己評価は厳しくなる傾向がある。学校現場にもお願いしているところだが、保護者や地域の方々の理解を得るためにも、良い取組は発信して伸ばしたいと考えている。事務局にも学校にも度々お願いしているが、発信の部分がなかなか進まない。せっかく点検評価報告書という制度があるので、発信の機会となるようにしたいと考えている。その他の場面においても発信を促していきたい。

イノズ 委員：活動状況の内容について、質問がある。まず、8ページの「待機児童解消による保護者支援の環境整備」はB評価となっている。本項目については、例年B評価となっており、小規模園の開園等の様々な取組をしているものの、待機児童の解消には至っていないということだが、現状の待機児童の人数を伺いたい。

松田 課長：6月時点で、46名の方が待機となっている。

イノズ 委員：例年、同程度の待機児童がいらっしゃるかと思う。保育ニーズが高まる中で、小規模園を開所したとしても、幼稚園の人数は減って、保育園の定員が足りない状況が続いていると思う。議論に上がっているこども園化も含めて、検討をしなくてはならないと思う。また、45ページ以降の教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの取組状況について、今年度から全校に統合型校務支援システムが導入された。昨年度から導入されていたモデル校の先生方の感想や、今年度から導入された学校における研修状況を伺いたい。

前田 課長：統合型校務支援システムについては、昨年9月から全校へ試験的に導入されていたので、その都度、研修を行っていた。現場の声としては、現段階では良かったという声は聞けていないが、始めたばかりなので、今後、校務のデジタル化が進めば、効果が表れてくると思われる。当初は入力作業も多く、先生方にむしろお手をかけたが、入力の終わった今年度末からは、かなりの負担軽減となる見込みである。特に負担に感じているという声もなく、先生方も今後のためと捉え、積極的に入力していただいている。

イノズ 委員：最後に、点検評価報告書全体について、飯島委員からもご意見があったが、項目が細かくなり、評価基準が明確になっていき、改善の兆しを感じる。しかし、他市の作成された報告書を見ると、奈良市や四條畷市では、更に詳しく、厳しく評価している。例えば、奈良市では、「教育委員会会議の運営」の項目に、開催回数、案件数、今後の方針等、かなり詳細に記載されている。また、別の項目として「教育委員会の会議の公開」があり、傍聴者の数を公開しているほか、傍聴しやすいように学校で会議を開催した実績があることなどを報告している。教育委員会の活

動が、いかに生駒の教育に還元されているかを、市民の皆様に分かりやすくお知らせするための点検評価報告書だと思う。教育委員として活動する上での自戒も込めてだが、「教育委員としての資質・能力の向上」について、教育委員として研修等に参加しただけで、A評価をいただいている。研修に参加したことで、教育委員としてどのように貢献したか、施策につなげられたかという点まで点検評価を行わなくてはならないと感じる。第2次教育大綱が策定され、アクションプランも新しくなると思う。そのタイミングに合わせて、点検評価報告書も、他市の参考も踏まえ、数値的評価を取り入れるなど、より具体的にしていきたい。例えば、奈良市は5段階評価で、ほぼ3になっており、5となるには目標値の30%以上の成果が出たものに限られている。やはりこのように具体的で、誰が見ても納得できるようなものであれば、その後の生駒市の教育の発展につながると思うので、協議・検討をお願いしたい。

伊藤委員：教育委員として点検評価報告書の審議に加わるのは初めてなので、教育委員が関わる事業が、これほど多岐に渡ることには驚きを感じた。ここには学校での事業は記載されていないので、事務局や現場の先生方も業務量がかなり多いのだろうと感じた。内容について、教育大綱の中でメイン事項ではないのかもしれないが、預かり保育にも関連するファミリーサポート事業が記載されていないようだが、評価の対象ではないのか。ファミリーサポート事業における依頼数、援助数、ニーズの充足率、もし依頼があっても対応できない場合の他機関との連携状況等、どのように運用されているのか伺いたい。

角井所長：ファミリーサポート事業については、子育て支援総合センターの事業になる。令和元年度の会員数の実績は、依頼会員602人、援助会員123人、両方会員42人の計767人となっている。依頼内容は、保育園のお迎え、保護者の通院による預かりが多い。平成30年度から比べて、依頼会員は増えた。充足率は直ちには分からない。

伊藤委員：評価の中で、例えば、7ページの下段のパパセミナーについて、参加者が減少しており、評価として開催曜日と時間を工夫するというコメントが付いている。この評価は現場での実感に基づくものなのかと思うが、もしかしたら、そもそも父親にそのニーズがあまりないのかもしれないし、セミナーの内容が父親本人の学びたい内容や母親が父親に学んでほしい内容と mismatch を起こしているのかもしれない。このような項目をすべて報告書に書き込むことはできないが、現場で実施された方の実感やアンケートを実施していれば、その結果によって分析できる部分があると思う。現在、事業の評価に当たって、PDCAや数値的な評価と同様に、現場の実感が重視されている。実感に基づいて加えた工夫や試行錯誤は、次年度以降に事業を実施する際の課題設定につながる。本報

告書に書き込むかは別として、現場の実感を記録として蓄積していくことが、組織の財産になる。報告書内の評価は非常に簡潔にまとめられているが、その背景に様々な気づきや実感が込められているのであれば、今後それを組織として蓄積できれば、次年度以降にもう一工夫増やす、あるいは無駄を減らすことにつながられる。現場の担当者の実感や参加者へのアンケートの結果を実用的な形で残していただきたいし、既があれば、拝見したい。また、成果や評価として、「参加数」「実施回数」「発信した」という表現が多い。最も重要なのは、優先課題への充足率なので、課題の重要度によって評価方法を変えたり、単に参加したことだけではなく、参加者の満足度や理解度を組み込めると良いと思う。

審議結果 【継続審議】

○日程第7 議案第26号 学校運営協議会を設置する学校について

・学校運営協議会を設置する学校について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書 p 9、資料4 >

(質疑)

坪井委員：委嘱されている委員について、上中学校は地域の方も含め、多岐に渡っている印象である。一方、大瀬中学校はPTA会長や副会長が多数となっているが、理由はあるのか。

前田課長：委員については、各校で必要と感じる方を指名している。今後進めていく中でも協議されることかと思う。

八代課長補佐：補足させていただく。生駒市では今年度が、学校運営協議会への移行期間となっている。そのため、学校評議員と学校運営協議会を併置している学校もあり、大瀬中学校は併設している学校となる。大瀬中学校の名簿には、8番以降が空欄となっているが、今年度は学校評議員として学校運営協議会の会議に入らせていただくものであり、来年度以降は、学校運営協議会の委員として、名簿にも追加する予定である。

飯島委員：学校運営協議会設置にもご尽力いただいたが、設置した後が、学校運営協議会の本来の仕事となる。地域によって検討課題はそれぞれ異なるので、学校運営協議会の委員には、学校の固有の事情をくみ取っていただき、教育委員会や事務局に伝えていただきたい。今後、教育委員会においてコミュニティ・スクールの実現のために協議・検討していく際、その情報も参考にしたいので、ご協力をお願いしたい。

審議結果【原案のとおり可決】

○日程第8 議案第27号 生駒市社会教育委員の委嘱について

・生駒市社会教育委員の委嘱について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書 p 1 2、資料 5 >

(質疑)

レイノルズ委員：質疑ではなく希望としてお伝えしたいことであるが、社会教育委員会議の会議録等を拝見したところ、今後の学校運営協議会やコミュニティ・スクールについても協議されており、学校教育と社会教育の垣根を越えた議論の場を持ちたいという意見があり、私も同意見である。コミュニティとして学校教育に関わっていただくという方向性なので、社会教育と学校教育に関係なく、教育に関わる者として、活発な意見交換をしていければと思うので、今後協議の場を設けていただきたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第 9 議案第 2 8 号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

・生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書 p 1 4、資料 6 >

(質疑) なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第 1 0 議案第 2 9 号 生駒市学校医の委嘱について

・生駒市学校医の委嘱について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 1 6、資料 7 >

○日程第 1 1 その他

・令和 2 年 7 月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明

(質疑) なし

・令和 2 年度学校訪問の開催について、レイノルズ委員から質問

レイノルズ委員：例年 5・6 月に学校訪問をしていた。今年度は臨時休校等の影響で延期となっていたが、今後学校に訪問させていただく機会はあるのか。

中田教育長：現在検討中である。夏期休業の短縮が学年ごとに分かれたので、日程も組みにくくなっており、学校の受入れ態勢にもよるが、数校訪問したいと考えている。特に教育委員に現場の状況を見ていただき、ご意見等をいただきたい ICT 教育については、ハード面の整備が、2 学期には整わず、3 学期となる予定である。その点も含めて日程調整をしていきたい。また、校長会を通じて、各校において感染症対策のために衛生面の管理を依頼しているが、時期的に熱中症対策も必要になってくる。夏期

休業短縮で例年より暑い時期の登校が増えるので、現場での気遣いが必要になってくる。校内の安心・安全が最優先と考えているので、その状況についても、教育委員の皆様にもご理解いただきたい。

○閉会宣告

午後2時51分 閉会